

〈社会科〉 4年

「大田区学習効果測定」結果の分析

全国正答率よりも 0.4 ポイント上回った。前年比では、2.2 ポイント上回った。全般にほとんどの観点において目標値を上回っており、活用の観点においては 11.6 ポイント上回る結果となった。

- 「買い物調べ」ではほとんどの項目において、正答率が 80%を超えていた。前年に比べ、全ての項目において下回った。
- 「安全なくらし - 火事 - 」では前年に比べ、下回った。
- 記述問題の「昔のくらしの様子」においては、前年に比べ、目標値より上回る結果となった。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・地図や地形図を正しく読んだり、地図記号を確実に理解したり、複数の資料を組み合わせて考えたりすることが課題である。
- ・1つまたは複数の資料から、情報を正確に読み取る力を付けることが課題である。
- ・体験的な学習や見学などの学習で学んだことを資料を活用し、図表にまとめるなどして、一つ一つの知識を関連させ理解することが課題である。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・資料から読み取ったことを根拠として、自分の考えをもつことが課題である。
- ・写真やグラフなど複数の資料から読み取ったことを組み合わせて、判断することが課題である。

〈学びに向かう力、人間性〉

- ・調べ学習において、いろいろな方法で調べ、事実を把握することは、ほぼできているが、特徴を考えることが課題である。
- ・学習したことから、毎日の生活の中で継続的に実践していく態度を育てることが課題である。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・表やグラフを見るポイント（表題・単位や数値・全体の特徴など）を示し、継続的にグラフを読み取る活動を取り入れる。
- ・児童に気付かせたい、捉えさせたいねらいにあったグラフや写真などの資料を選定し授業に活用する。
- ・資料から分かったこと気付いたことなどを箇条書きにし、友達と意見を交流する機会を設定する。
- ・地図や地図記号に関わる指導を継続して行い、地図記号や方位、都道府県名等の知識の定着を図る。
- ・身につけさせたい社会科用語を提示し、意味を指導する。その用語について説明あるいは、その用語を用いて学習のまとめを行う活動を日常化とし、知識の定着を図る。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・児童が意見や疑問を出し合う活動を通して、考えを整理し、考え広めたり、深めたりする機会を設定する。
- ・単元のまとめに新聞やパンフレット作成等の活動を取り入れる。内容に「自分にできること」のように自分の生活との関わりを意識して考えさせるために社会に働きかける項目を入れる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・調べ学習において、それぞれの調べ方の特徴を踏まえて、多様な方法で調べる機会を増やす。
- ・体験的な学習や施設見学の機会を多く設定して学習意欲を高める工夫をする。また、上記の活動を通して、社会的な事象を自分たちの生活と密接にかかわる課題としてとらえる。そして、自分にできることを生活の中で実践していこうとする態度を育てる。